

## ユニバーサル社会への扉(2)

## 外国人に出会ったら

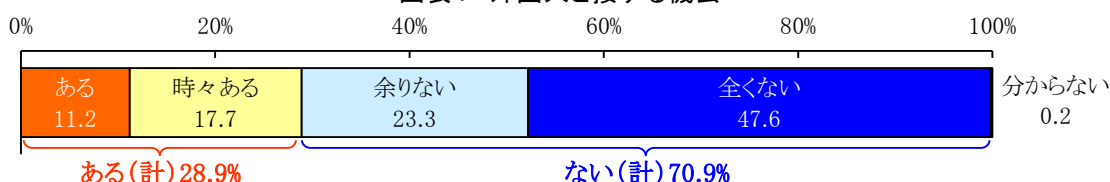
上席主任研究員 水野 映子

## &lt;日本人の外国人との意思疎通方法&gt;

前回のこのシリーズ\*<sup>1</sup>に続き、今回もまずは文化庁の「国語に関する世論調査」最新版の中から、日本人の外国人との接し方に関するデータに注目する。この調査が実施されたのは2020年2月27日～3月15日、すなわち新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日本を訪れる外国人が減り始めていた\*<sup>2</sup>ものの、入国制限はまだ一部にとどまっていた頃である。この時点において、挨拶程度や店で買い物をする際のやり取りなどを含め、外国人と接する機会があると答えた人は28.9%であった（図表1）。

また、接する機会がある人に対して、外国人とどのように意思の疎通を図っているかを尋ねた結果では、「身振り手振りを交えて」が最も多く51.3%、次に「英語などの外国語を使って」「やさしい日本語で分かりやすく」話すようにしている人がそれぞれ4割台（44.7%、43.7%）となった（図表2）。「特に気を使うことなく日本語で」という人も2割ほどはいるが、上位3項目に比べると少ない。外国人といっても母語は何か、日本語を知っているか、観光客か日本に住んでいる人か、などによってコミュニケーション方法は違ってくるだろうが、総じていえば「身振り手振り」「外国語」「やさしい日本語」のどれかで外国人に話すようにしている人が多いといえる。

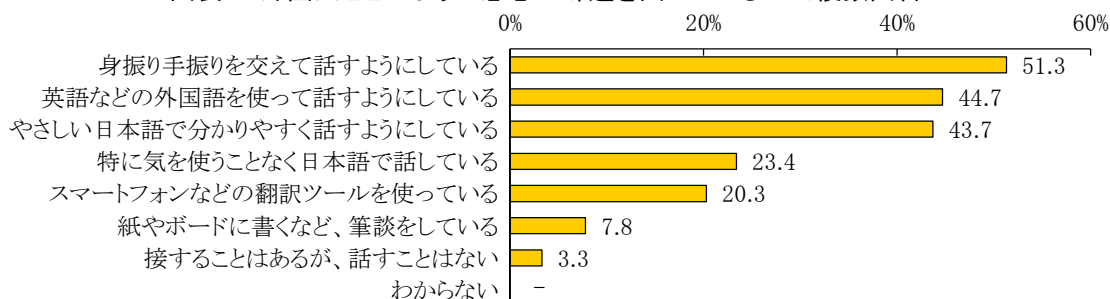
図表1 外国人と接する機会



注：調査対象は全国16歳以上の男女個人3,557人、有効回答数（率）は1,994人（56.1%）

資料：文化庁『令和元年度 国語に関する世論調査 漢字・言葉遣い・外国人と日本語』ぎょうせい、2020年10月

図表2 外国人とどのように意思の疎通を図っているか&lt;複数回答&gt;



注：回答者は、図表1の質問で外国人と接する機会がある（「ある」＋「時々ある」）と答えた人

資料：図表1と同じ

### <「やさしい」言語への切望>

スペイン語圏であるウルグアイに住んでいた筆者に対して、ウルグアイ人が用いたコミュニケーション方法も多様だった。スペイン語が堪能でない自分が最も困ったのは、前述の調査の表現を借りるならば「特に気を使うことなくスペイン語で」話されることである。スペイン語で生活しなければならないことは重々承知していたが、ネイティブの自然な速度・表現のスペイン語の理解には苦労した。

一方、挨拶程度以上の英語を習得しているウルグアイ人に出会った時や、スペイン語を話さない外国人が比較的多く集まる場に行った時などは、しばしば英語で話しかけられた。日本に来た外国人はみな英語ができると思っている日本人がいるのと同様に、スペイン語圏以外の国から来た人はみな英語ができると思っているウルグアイ人もいるようだった。しかし、お互いが英語のネイティブではないため、スペイン語よりかえって通じにくいこともあった。

だから「身振り手振りを交えて」、さらには「やさしいスペイン語で分かりやすく」話された時、例えば、理解しやすい簡易な表現を用いたり、理解できない言葉を別の言葉に言い換えたりしてもらえた時は、とても助かった。だが、そういうことができるウルグアイ人は、自分の周りにはさほどいなかった。子どもに話しかけるように「優しく」、しかし「易しく」はない単語・言い回しを使う人や、聞き返すと同じ言葉を繰り返す人もいた。

日本でも、外国人や耳の聞こえにくい人などに対して、似たような接し方をしている人を時おり見かける。多くの方は、悪気があって意図的にそうしているのではなく、どう話せば理解されやすいのかがわからないようだ。どの言語においても「やさしい〇〇語」を使うことは、必ずしも「易しく」ないことがうかがえる。前述（図表2）のように、外国人に「やさしい日本語で分かりやすく話すようにしている」と答えた人は半数近くいるが、その日本語が外国人にとって本当に分かりやすいかどうかには疑問の余地もある。

### <外国人と出会った際に最も大切なのは？>

日本では、普通の日本語より簡単で、日本語に不慣れな外国人などにわかりやすい「やさしい日本語」を普及させる動きが以前からあり、それに関する情報も多く出ている。その背景には、災害時や平常時に必要な情報を受け取れない外国人がいること、日本にいる外国人の中には英語がわからない人や、英語より「やさしい日本語」での情報を望む人もいること、すべての外国人に対して母語で情報を伝えるのは難しいこと、などがある。「やさしい日本語」での対応が適切だと思われる外国人に出会った時のために、日本人がそれを使うコツを学んでおくのもよいだろう。そうすることは、外国人だけでなく日本人にもわかりやすい日本語について考えるきっかけになり得る。

もっとも、外国人にとっておそらく最も残念なのは、よく分からない言葉で話され

ることではなく、何も話してもらえないことである。冒頭で紹介した調査（図表1）では、外国人と接する機会がないと答えた人が7割を超えているが、外国人にもう少し気を配っていれば接する機会があった人が、本当はもっといるのではないかという気もする。

筆者がウルグアイにいた時は、街中で困っていると、見知らぬ人によく声をかけられ、助けてもらった。それどころか、困っていなくても話しかけられたり、逆に道を聞かれたりすることすらあった。日本人がウルグアイ人と同じようになるべきかどうかはさておき、もし自分が日本に来た外国人だったら、もう少し気軽に声をかけてほしいと思うかもしれない。

新型コロナウイルス感染拡大以降、街中で外国人に出会う機会は少なくなったが、感染が収束すればいずれまた増える。次に外国人に出会った際には、外国語や「やさしい日本語」を使いこなす自信がなくても、まずは思いつく言葉やジェスチャーなどでコミュニケーションを図ってみることから始めてはいかがだろうか。

（ライフデザイン研究部 みずの えいこ）

#### 【注釈】

- \*1 水野映子「ユニバーサル社会への扉(1)『日常生活に困らない程度』の言語は簡単？」2020年11月  
<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/wt2011c.pdf>
- \*2 日本政府観光局(JNTO)によると、訪日外客数は2020年1月では約266万人（前年同月比1.1%減）、2月では約109万人（同58.3%減）、3月では約19万人（同93.0%減）であった。